

2001年10月2日

いすゞ 大型トラック用 運行診断システム 「みまもりくん」 を開発

いすゞ自動車(株)はこのほど、大型トラックから燃料消費量をはじめとする様々な運行データを抽出し、解析・診断を行うことにより最適運行を提案する運行診断システム「みまもりくん」を開発した。このシステムはいすゞ大型トラック「ギガ」シリーズの2000年モデル以降に対応可能で、2002年1月から発売を開始する予定である。

現在日本のトラック輸送業界は、不況の長期化という厳しい経営環境の下で、コストの削減が緊急課題となっており、中でも燃費低減と安全運行が最重要課題となっている。このような状況下でいすゞは、個々の車両に蓄積した運行データを抽出・分析することで、運行形態に合った運転操作、省燃費運転を、運行管理者やドライバーに提案する運行診断システム「みまもりくん」を開発した。このシステムは、ドライバーの各種運転操作や、燃料の噴射量などの情報を「みまもりユニット」に記録し、そのデータを定期的にいすゞで解析・診断し、結果をユーザーに「みまもりレポート」として提供するとともに、運行管理のアドバイスを行うシステムである。

「みまもりくん」の導入による効果は次のとおり。

1)燃料費削減のメリット

- ・燃費を左右する運転操作が車両別に明確となるため、個々のドライバーに効果的な省燃費運転をアドバイスすることができる。
- ・省燃費を促進する運転方法を数値化して評価するので、より具体的なドライバー指導ができる。

2)安全運転上のメリット

- ・急激な車速の変化や急ブレーキの頻度などがレポートにて具体的にわかるため、安全運行のための改善すべき項目が明確になるとともに、積み荷を保護する丁寧な運転の促進につながる。

3)整備費削減のメリット

- ・レポートに沿った省燃費運転を実施することにより 車両への負荷が減少し、車両寿命の長期化及び修理コストの削減につながる。

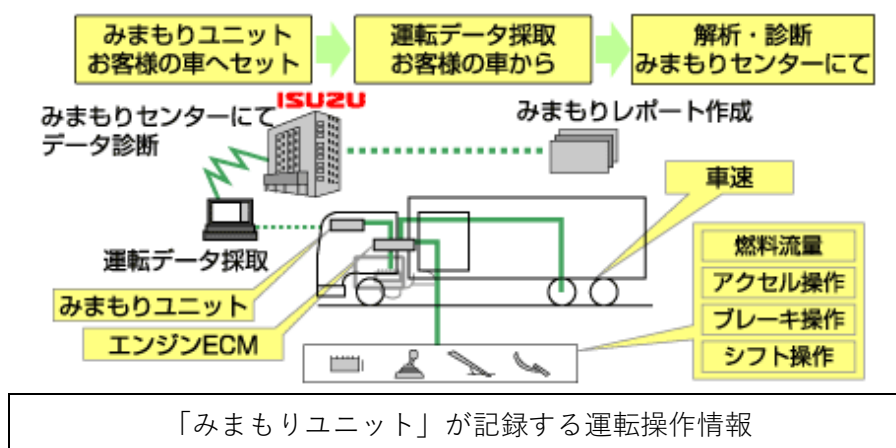
いすゞは「高効率輸送」を実現するトラックや、運行管理システムなど、物流にかかわるトータルコスト削減につながる商品を開発し、市場に投入してきた。今後も、物流に関わるハード、ソフトの両視点から事業者のコスト削減に貢献する商品を開発し、提案してゆく。

「みまもりくん」 ネーミングの由来
車両運行状況を コンピューターが 見守るシステムなので
「みまもりくん」と命名。

みまもりシステムの流れ

エンジンを制御しているコンピュータの情報を記録する新開発のみまもりユニットを車両に

取り付け、その運転操作情報をいすゞが解析・診断し お客様にレポートを提供する。



1) 走行区別の車速

一般走行区分・高速走行区別に 平均速度、最高速度、平均燃費を記録する。

2) アクセル踏み込み量の変化

一般走行区分・高速走行区別に アクセル踏み込み量の変化を記録する。

3) ブレーキ減速 G

ブレーキ減速 G を記録する。

4) アイドリング時間

アイドリング時間と アイドリング燃料消費量を記録する。

5)各ギア段の使用頻度

一般走行区分・高速走行区分別に 各ギア段の使用頻度を記録する。

6)シフトアップ時のエンジン回転数評価

シフトアップする際のエンジン回転数を記録する。

これらの運転操作情報をいすゞが解析し、走行データをユーザーに提供するとともに、データを総合的に診断し、どのように走行すれば 燃費が改善するか、より安全な配送が可能となるか、などの提案を行う。

<目標契約数>200 件/年

<販売予定価格>(消費税は含まず)

契約時から 6 ヶ月間 (基本契約料 + 6 レポート) 50,000 円/台

以後 1 レポートにつき 3,000 円

以上